

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年第 1 回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日 時： 平成 21 年 6 月 19 日(金)午後 4 時～6 時
II. 場 所： 私情協事務局会議室
III. 出席者： 土屋委員、津田委員、奥村委員
事務局： 井端事務局長、森下主幹、山野上

IV. 検討事項：

1. 社会学における学士力について

事務局より、中教審より学士課程教育の答申についての内容、日本学術会議における取り組みについて紹介がなされた後、当協会での学士力策定の方向性について次のように説明があった。当協会は、授業での IT 活用の可能性と限界を研究しているが、前提条件としての学士力を規定することが必要となる。また、サイバーFD 教員というインターネットで意見交換できる社会学系教員 300 名がいることから、広く万機公論を尽くすことができるため、当協会でも学問分野別に学士力の検討を行う。学士力については、高大連携や産学連携も巻き込んで進めることが望まれる。また、学士力の目標としては、最低限の基礎力に限定するのか、4 年間で身につけるべき専門能力とするのか検討することが必要となる。

その後、座長を決定し議事に進んだ。議事では社会学という学問体系の問題や教育現場での課題や特長等について、自由に意見交換を行った。

(1) これまでの経緯の確認

座長より、昨年度の本委員会の活動について、問題点を含めて確認がなされた。

- ・ 社会学非常に多様な内容を含むため、統一的な目標を設定することが果たしてよいのか議論が割れた経緯がある。
- ・ 社会学を何のために学ぶのか、学問として実利的な方向に結びつけるのに抵抗があった委員がいた。
- ・ 隣接学問領域、たとえば「メディア社会学」、「国際社会学」などとの関係を考慮すべきである。
- ・ 昨年度の委員構成では、社会学プロパーの委員がおらず、目標設定の段階で異論が沸いた。本年度委員構成を改めて仕切り直しを行うこととなった。

(2) 教育現場に見られる課題や特長

教育現場における社会学の問題点や魅力等について、意見交換を行ったところ、次のような意見が挙がった。

- ・ 社会学という学問がどのような学問なのか分かりにくいいため、高校の進路指導部で

は積極的に社会学部を薦めないという問題がある。

- 社会学の良い点は、基本部分はあるものの体系立っていないがゆえに、色々な事象を扱えるという面白さにある。それが上手く伝わっていないのではないか。
- 様々な事象を融合していく面白さに出会ってもらうことが必要ではないか。
- 大学全入時代を迎える、学生の常識が「地盤沈下」を起こしている。常識と知っていることを崩せないと、就職においても大変苦勞する結果となる。
- 「問い」を発見する力、つまり自分で問題を考えて解決するというプロセスを学ばせることが重要である。そのためには体験型学習が有効となるのではないか。

(3) 今後の論点

社会学の学士力を検討するうえで重要となるポイントについて検討したところ、次のような意見が挙がり、今後の参考とすることとなった。

- フィールド学習と座学のバランスの問題がある。学生の視野が狭くなると身近な問題にしか関心を持たなくなり、国家や社会全体を問題にすると学生がついてこないという現状がある。アニメなどの身近な問題を取り上げるのは良いが、そこから社会という大きな世界の中で物事をどう理解するかが重要である。
- ミクロとマクロ、理論と概念を往復する力を養うことが社会学の特性ではないか。
- 現象を記述することと原理を説明することのどちらを目指すのかが問題となる。マルクス主義の影響を受けた社会学では答えを見出すことを目指していたが、現在は価値相対化され答えが出せなくなっている。
- 社会学の面白さは視点によって見えるものが違ってくることにある。

2. 今後の進め方について

今回の委員会にて委員間の共通認識が構築されたため、次回委員会では学士力の項目を検討することとなった。なお、次回日程は7月31日(金)午後4時30分より開催することとなった。